

教育問題

無気力な子供が増えている。みな自己肯定感が低く、自分をどう生かせばよいか、社会とどうつながっていかばよいか分らず退屈そう。この問題は15年前から変わらないが、過去5、6年で特に悪化している。

子供の意欲低下の大きな原因は、「個」を見ないで、集団にとって「正解」とされる価値観を教え込むような高度経済成長期における学校教育にある。状況は変わっており、教育も個人がやりたいことを見つけられる「21世紀型」に転換すべきだ。その転換期は今ではないだろうか。

下村博文文科科学相が不登校問

NPO法人「キーパーソン21」代表

朝山あつこ氏 (53)

子供の意欲育む施策を

題に熱心に取り組むなど、現在の教育政策に期待するところは大きい。しかし、最も重要なのは、不登校になるほどではない「普通」の子供たちの無気力に、どう働きかけるかだ。非正規雇用増加などが争点になるが、問題の本質は経済ではな



あさやま・あつこ 長男の通う中学校で起きた「学校崩壊」をきっかけに、平成12年「子供たちが将来を考えると手助けがしたい」とNPO法人「キーパーソン21」を立ち上げる。設立以来、3万人以上の子供たちへの生き方学習支援や、教員研修を行っている。

く、「普通」の子供たちが「何をしたいのか」が分からないことだ。

「キーパーソン21」の活動を通じて、触れ合い方を変えれば、子供たちの目の輝きが変わることを知っている。だからこそ、教員の質の向上に国は取り組んでほしい。

教員免許の更新制度だけでは足りていない。まず、教員自身が「教師になって何がしたかったのか」という目的を持てるような研修を行い、子供の「自分で決める力」を育て、意欲を育む教育への転換を、施策として打ち出していくことが重要になる。